

ある日のできごとから

——うっかりしている時——

光木 美子

天気の良い五月のある日、私はこんな体験をしました。

砂場は全面が水びたしになり、海になりました。男児たちは裸足になり、上半身裸になり、はしゃいでいました。クライマックスが過ぎ砂場が静かになると、私は男児Mを誘って裸足になり、海の中に入り、なま暖かい泥水を手足で快く感じていました。すると、「作戦だ!」という声がちらっと聞こえたかと思うと、私とMはドバツと、泥水を背後からかけられたのです。私はびっくりしてふりかえると、男児Tがにやにやしながら立っていました。なんだろうと思っていると、またもや大量の泥水をバケツにすくい、私とMにかけました。私はその時、自分にかけてくれたことよりも、Mのことがとっさに思われました。ああ……今日はじめて、はじめて、Mは泥水の中に入ったというのに……Mの活動がとぎれはしないかと、そのことが気になったのです。「どうして?’とTに尋ねたりしているうちに、またTは泥水をかけました。私はムラムラとしました(恥しいことに)。しかし同時に、

私は頭から泥水を浴びていたものの、むしろ冷たく快かったので、いっそ泥かけっこにしようと思いつきました。そして、「よし、私もかけちゃえ」と足で泥水を加減しながらけると、Tの足にかかりました。するとどうでしょう。Tは急に顔色が変わり、声をあげて泣き出してしまいました。私はびつくりしてTの前に立ちつくしました。「どうして?’とも理由が聞けず、複雑な気持ちでTを見つめているだけです。しばらくするとTは泣き止み、近くにあったテンプルに、クレヨンでギギーと鋭い線を描くと、サーと私の前を去って行きました。Tの気持ちは、なぐり描きの行動で解消されたようですが、私の気持ちはすっきりしません。そばにいたもうひとりの男児は、「先生(私)が悪いよ。先生はがまんするもんだから。先生が水をかけなかったらTちゃん泣かなかったのだから」と言います。……おかえりの時、私はTに、「さつきはごめんさい」と言ったら、Tは、「うん」と軽く言うのと、私の顔も見ないでさっさと帰って行きました。

その後、私はもう一度この出来事を思いかえしてみました。どうしてTはあのように豹変してしまったのか。私が「よし、私もかけちゃえ」とTに向かっていった時、Tはどのように感じたのだろうか。私は、Tが最初水をかけたことを受けて、かけかえ

そう、かけっこの遊びにしようとなりました。しかし、Tにとつては、大人がきびしい顔をして、自分に向けて泥水をひっかけるなんて、がまんのできないことだったのです。私があの時うっかりとTに見せた顔、また感情が先走ったあの行動が、Tにどのような映ったのかを思うと、恥しい限りです。落ち着いて考えれば、私にTの行動をもっと柔軟に受けとめる余裕があったなら、また、Tの日頃の様子を掴んでいたなら、あんな風にはならなかったと思います。

ともあれ、うれしいことに、この出来事があってから、Tとの間がしっくりといくようになりました。それまで私は、自分を存分に出している五歳児と、どのようにかかわっていいか、その手立てを掴みかねていました。それ故に、子どもたちとのつき合いが、何か表面的に終わっているように感じられていました。ところが、この日の泥水をかけるという粗野な行動から、私自身の殻が打ち破られ、地で子どもとぶつかることの大切さを私は教えられたのです。

倉橋先生は、うっかりしている時にこそ、その人のもち味が出るとおっしゃっています。実に深い意味が含まれていると思います。子どもと保育者のふれ合いにおいて、思わず知らず現われ出

る姿や行動の中に、人間のそのままの姿があり、教育があると教えて下さっています。私はというと、うっかりして何かをやらかした後、あわててとりつくりうろくこともあるし、また、うっかりしていることすら気づかずにしてしまっていることもあります。しかし、その後自分の保育をふりかえった時、うっかりした時の行動が、それまで気づかなかった自己の一面を照らし出してくれ、大いに反省させられたりします。また、うっかりしていたが故に、思いがけない子どもとの出会いが成立したり、思いもよらない楽しい遊びに発展したりもします。

保育は普段の自分がまるごと出ます。こんな自分をあからさまに子どもにぶつけるなんて、「こわいなあ」と思う一方、それ故にまた、常に自分が包みかくさず現われ、自らが教えられる場に置かれていることを思うと、やはり「ありがたいなあ」と思わずにはいられません。
(まんとみ幼稚園)

